



【主な内容】

/// ふるさとの環境自慢 ///

敦賀市明神町「猪ヶ池」

/// エッセイ ///

「身近に『みる』地球温暖化」川平浩二さん

/// 特集 ///

環境にやさしい暮らしを考える

/// トピックス ///

企業研修会「企業活動と環境」開催される

表紙写真／「冬の造形」
(撮影／山崎 大祐)●ふるさとの環境自慢
「猪ヶ池」(敦賀市明神町)

敦賀市内から気比の松原の横を抜けて、主要地方道佐田・竹波・敦賀線を行く。右手に海を見ながら、さらに敦賀半島の奥へと車を走らせ、県道竹波・立石・縄間線へと入る。



途中、釣り人たちを横目に、敦賀半島の複雑な地形をそのままあらわしたように曲がりくねった道を行き、半島の先端近く、明神崎の付け根にたどり着くと、右手に猪ヶ池が現れる。

猪ヶ池は、海と隣り合った、周囲約2キロメートルの淡水湖。

この『猪ヶ池』という名に関しては、次のような由来が伝わっている。

昔、この池は雨乞いの池であり、『池に入るな、池の魚を食うな』という戒めがあった。しかし、これを知らなかった猪之助という男が池の魚を食べてしまったところ、急にのどが乾いてきて水が飲みたくなり、池の中へ水を飲みに入ったまま、二度と戻らなかった。以来、この池を猪ヶ池と呼ぶようになったという。

戒めを破った人間は池の中に引きずり込まれてしまったけれど、この池を憩いの場としている水鳥たちには、そんな心配はなさそうで、水面をすべるように泳いでいく姿は、実に気持ちよさそうに感じられる。

こうした水鳥たちの様子を観察できるよう、池にそって遊歩道があり、水鳥たちを驚かせないようにそと観察できる覆いのある場所も設けてある。残念ながら、知識が乏しく、ガイドブックを片手に確認できたのはマガモとカルガモのみであったが、実際にはもっと多くの水鳥たちがいたようだ。ここで観察できるのは水鳥だけに限らない。

猪ヶ池の周辺は野鳥の宝庫で、鳥獣保護区特別保護地区にも指定されており、年間を通じて70種類にもものぼる野鳥が確認されている。

姿を確認することはできなかったが、何種類もの鳥たちのさえずり声が、木々の間から絶え間なく聞こえてきて、冬場にしては穏やかな日和の午後を彩っていた。

時折吹く風に水面がさざなみをたて、陽の光を反射してきらきらと輝き、風の形を見せる。木立はざわざわと枝をゆらして、風の音を伝える。反対の池の方向からは、水鳥たちが飛び立つ音。

時折、道を行く車の音だけが唯一の人工音。それ以外はすべて自然が奏でる音だけの世界。

池の向こうに見えるのは、おそらく鱒蝶ヶ岳であろうか。山頂には雪を頂いている。

この近くには、多くの海水浴場があり、夏の間はきれいな海を目当てに集まったたくさんの客で賑わうのであろうが、季節はずれの今は静かなもの。

海岸べりで釣り人たちが、糸を垂れているのみである。

明神崎の沖に浮かぶ水鳥も、ただ白い砂浜と松の姿を見せるだけで、夏の喧騒とは無縁のようなすました表情を見せていた。



★ ふるさとの環境自慢募集中！！★

皆さんの故郷自慢で1ページを飾りませんか。

1000字程度の原稿に地図・写真を添付して応募してください。場所の紹介だけでも結構です。採用された方には記念品をお送りします。

●エッセイ「身近に『みる』地球温暖化」

福井県立大学生物資源学部教授

川平 浩二さん

二千年紀の始まりと20世紀最後の年である、西暦2000年が始まった。21世紀の人類課題のひとつは地球環境問題であるが、その中で最も解決困難な課題は地球温暖化問題であるといえる。この問題は身近ではっきりみえないために、先のことであるとか、まだ始まっていないのでは、という声を聞く。確かに煙が立ち込める様相のように、はっきりしていない。しかし、いくつかの身近の変化を見ると、すでに進行中であるといえる。私達の身近で見える変化を取り上げて、地球温暖化の問題を考えてみる。

身近で見られる最近の「天候異変」についてまとめてみる。

(1)降雪量の減少

北陸地域は世界的にも豪雪地帯として有名である。記憶に刻まれているのは、昭和38年、56年の豪雪である。豪雪は交通や生活に重大な影響を与える大雪であり、一夜に1メートル近い積雪量が出現した場合に名づける。このとき、福井市内は2メートル近い積雪で覆われ、家の雪降ろしに苦しめられた。大野市では電柱の電線をまたいで歩いた、との話を知人から聞く。昭和61年の冬以降、1メートル程の積雪は福井市では見られなくなった。そ

して暖冬傾向が昭和62年(1987年)の冬以来持続し、今年で14年連続となる。今(2000年2月)もスキー場が雪不足となる顕著な暖冬傾向となっている。暖冬の特徴は、雪のかわりに雨が降る日数が増えており、降雪および降雨量を合わせた降水量は変化がない。降雨は雪を急速に溶かし、雪で覆われる地域を狭め、さらにその期間を短縮する。

(2)大雨が多くなった

雨は農業にとって必要不可欠であるが、雨降りの型が変わったと思える。たとえば、しとしと降る雨が少なくなってきた。ザーザーと降る大雨が多くなっている。熱帯におけるシャワーのような降雨に似ている。また、雨不足や豪雨という極端な降雨変化が現れている。昨年、1999年9月頃は、暑くて秋とは思えない期間が続いたし、一昨年、1998年は梅雨の明けない夏と秋であったという、変化にみられる。1999年秋、雨不足のために川の水を田んぼに撒くと、海水が多かったために稲が枯れた事例が福井市で発生した。また「今庄つるし柿大ピンチ、出荷量例年の1%」との記事を福井新聞でみる。裏作の時期に、夏の猛暑と少雨によって8月末にはほとんどの柿が落ちてしまったことによる。豪雨が少雨かによる大きな影響である。

(3)植物季節現象の変調

ここ10数年間の変化には植物の開花や落葉の時期という、植物季節現象にも変調が現れている。「福井県の気象百年」(福井気象台)によると、「県の花」である水仙の開花日は、3月下旬から初旬へと時期が早まっている。年によっては、1月初旬の開花も見られる。平均として20日ほど早まっている。冬の気温上昇に対応している様子である。「イロハカエデ」の紅葉日は、11月下旬から12月中旬へと2週間ほど遅くなっている。植物季節現象は、気温のみで決定されるわけではないが、この変化は夏が長く、冬が短くなっていく温暖化傾向を反映している可能性が高い。極端な例として、昨年秋の10月、瀬戸内海の島や高知県の海岸部で桜が咲いた。太平洋側では「卒業式に桜満開、入学式に桜散る」という私達の季節感の大変化が起こりかねない。

これらの変化は、30代以上の北陸に住む人にとっては、体験から読み取れる変化であろう。何故このような変化が生じているのか。これらと似た変化が日本全域や世界の各地で現れていることから、地球温暖化の進行と考えられる。

地球温暖化の進行は、モデルによる計算結果は10年で0.2ないし0.3°Cの割合で地球全体の平均気温が上昇していく。季節としては冬季ほど上昇が大きく、温暖化の程度は緯度帯や内陸・海洋によって異なり、高緯度の内陸部で平均以上に気温上昇が生じている。現在のところ、著しい気温上昇域はシベリア付近である。ツンドラ地帯の凍土が解けてマンモスの骨格が出土する一方、家が傾き倒壊することが起こっている。また北極海を覆う氷床は、ここ20ないし40年で氷の厚さが40%ほど薄くなり、その面積が10年ごとに約7%縮小している。北陸の冬の積雪量減少を上回る急激な変化といえる。温暖化の原因は、主として石油や石炭等の「化石燃料」の使用による二酸化炭素の増加による。しかし重要な点は、二酸化炭素による気象上昇は空気中の水蒸気量の増加をもたらす、さらに気温を上昇させる。この効果によって、二酸化炭素単独による気温上昇を約1.8倍増幅する。現状は水蒸気の温室効果は二酸化炭素の四倍近い大きさである。水蒸気量の増加により、大雨が多くなり、冬の雨は積雪を溶かす。モデル予測は雲や雨の分布をまだ十分に計算できない。

私たちは何をなすべきか？二酸化炭素増加を放置せず、減らす行動計画に参加することにある。国別の二酸化炭素排出量で、日本は世界第四位で全体の5%ほどである。この計画の実行は、省エネルギーや太陽光発電等の自然エネルギーの活用によって、二酸化炭素減少を進めるだろう。その遠大な目標は自然と共生する人間の「真の豊かな文明の創造」であると考えられる。

「福井県地球温暖化対策地域推進計画」が来る4月より実施される。人類的課題の解決に向かって、県民全体が参画していくことを期待したい。

●特集 環境にやさしい暮らしを考える

お金さえ出せば、便利で快適な暮らしが送れる現代社会。便利さや快適さと引き換えに支払うお金はいくら？そして環境への負荷は？

◆どんな暮らしをしていますか？

冬季におけるAさん(1人暮らし)のある日の生活。

午前7時 目覚し時計2つとテレビのタイマーで目覚めるが、寒いのでエアコンをつけ、しばらく布団の中で待機。

部屋が暖まってから、ようやく起床。湯沸し器(ガス)のスイッチを入れ、ぬるま湯で顔を洗う。

部屋で着替えを済ませ、リモコンでエアコンとテレビのスイッチを切る。

朝食はコーヒーのみで済ませます。カップを軽く洗った後、湯沸し器のスイッチを切り、トイレ(暖房便座・温水シャワー機能付き)に入る。

8時 徒歩で出勤。燃えるごみの収集日のため、出勤ついでに集積場所へ。

8時20分 職場に到着。10階の仕事場までエレベーターを使用。

コーヒーを飲む。コーヒーメーカーの電源は日中入りっぱなし。給湯器も同じ状態。

8時30分 定時になると、蛍光灯の点灯数が増える。昼休みと勤務時間外には、自動で点灯数が減るように設定されている。

パソコンを起動。職場での仕事はほとんどパソコンで行うため、勤務時間中に電源を切るとはまずない。

オフィスのコピー用紙は再生紙100パーセント。内部文書は使用済み用紙の裏面を利用。使い終わった紙類

は、分別収集して職場内の資源ごみの日(月3回)にまとめて搬出。

12時 昼休み。昼食は出前の弁当。

13時 仕事再開。他の課へ資料をとりに行く。近くの階なので階段を使用。その後打合せ。シャープペンシルで書類に書き込みをする。再生プラスチック使用のマークはない。オフィスで使用する事務用品は徐々にエコ商品になりつつあるが、まだまだ少ない。

17時15分 勤務終了時間。蛍光灯の点灯数が自動的に減るが、残業をする人が多いため再点灯。

20時 仕事を切り上げ、帰宅につく。自分のデスク上の蛍光灯は消灯。

20時20分 帰宅。居間の電灯、テレビ、エアコンの電源をオンにする。湯沸し器のスイッチを入れる。

夕飯は前日の残り物を電子レンジでチン。レンジのコンセントは使用后抜く。電気ポットでお湯を沸かす。

食べ終わった後の容器を台所用洗剤(合成洗剤)で洗う。食べ物かすが流れないよう、流しの排水溝には水切りネットを設置してある。

お茶を飲んだ後、居間の電灯、テレビ、エアコン、電気ポットを切り、寝室の電灯、テレビ、エアコンをつける。

前日の残り湯を沸かし直して入浴。その間に全自動洗濯機で洗濯。

入浴後、ドライヤーで髪を乾かし、歯を磨いたあと、洗濯物を干す。

24時 電灯、エアコン、テレビを切り就寝。



紙の分別収集

次に、Bさん(二世帯住宅に家族総勢7人暮らし)の場合。

6時50分 起床。洗顔は水を使用。身支度の間、部屋のファンヒーター(石油)とテレビをオン。台所で朝食を取る。台所ではファンヒーターとラジオをオン。食べ終わった食器を洗った後、食器乾燥機に入れる。

7時40分 出勤。駅まで徒歩で10分、電車が25分、さらに職場まで徒歩で5分。10階の職場まではエレベーターを使用。

仕事中はワープロまたはパソコンを使用。昼休み中は電源を切る。昼食は職場の食堂でとる。他はAさんとほぼ同じ。

19時 帰宅につく。利用交通機関は出勤の時と同じ。

19時40分 帰宅。家族はすでに食事を終えているため、1人分の夕食をレンジでチン。食後、食器を洗い、乾燥機へ。しばらく休んだ後入浴

(風呂は石油ボイラー)。できるだけ家族が続けて入浴するようにしているが、残業で帰りが遅い日はお湯を足す。入浴後、洗濯機のスイッチを入れる。(翌朝干す)その後、就寝までテレビを見たり、インターネットでメールチェックをする。時にはパソコンで暮を打つこともある。

24時30分 テレビの主電源を切り就寝。朝まで電気毛布を使用。

◆やめるといくらの節約？

まずAさんの場合。

★リモコンで操作する家電のほとんどの主電源は入った状態。1日当たりではたいしたことがなくても年間を通したらかなりの電気量になる。(1日あたり推定506Wh(ワット時)、年間約4255円)

★お風呂を沸かしなおし水を節約しているが、1人暮らしならお湯はそれほど汚れないはず。残り湯を洗濯に利用すればさらに水を節約できる。

〈洗いのみに残り湯を使用した場合:20L、すすぎの一回目にも使用した場合:40L、年間で約7300Lで浴槽30杯分、約1,300円〉

★1人分ぐらいの洗濯物なら、2、3日分をまとめて洗った方が水も電気も洗剤も節約できる。

〈3日分をまとめて洗うと、3日で水45L、電気440Wh、洗剤約7g、電気代のみで年間約1,235円〉

では、Bさんの場合はどうだろう。

★食器を洗った後、乾燥機で乾かしているが、自然乾燥に切りかえると電気を節約できる。

〈1日当たり360Wh、年間約3,013円〉

★寝る時の電気毛布をやめて、毛布を一枚増やすと電気が節約できる。

〈1人1日当たり385Wh、年間(冬季4ヶ月間)約1,018円、家族5人で約5,405円〉

★2人に共通した負荷は、朝や就寝前のテレビのながら見。これをやめればさらに電気が節約できる。

〈1日2時間テレビを消すと、1日当たり302Wh、年間約2,530円〉

このほか、職場でのコーヒーマーカーや給湯器などは勤務時間中ずっと通電状態にあるため、かなり電気を消費しており、各課も同様とするとこれらの機器が職場全体で消費する電気は膨大になる。

また、2人とも通勤には自家用車を使用していないが、ガソリン車の場合、1日5分間のアイドリングをやめると1日当たりガソリンとして70mL、年間約2,600円の節約になるということもお忘れなく。

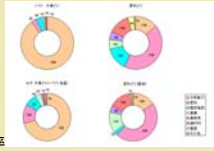
家電製品の待機電力



エネルギーの比較



農産物の生産投入エネルギー量と構成比



◆気付かない環境負荷

私たちの日常生活で、欠かせないもののひとつに家電製品があるが、そのなかでも、リモコンで操作する製品の主電源を切っている人は少ない。

待機時における消費電力の例を見よう。家電製品も省エネ型の製品が多くなり、なかには待機電力がごくわずかなもの

も登場しているが、種類によっては使用時と変わらないほど電気を消費しているものがある。

家庭での全消費電力量の1割が実は待機電力であるとも言われている。

では、ひとの移動手段に伴う環境負荷はどうだろうか。

通勤や通学あるいは日常の買物にも自家用車は欠かせないが、公共交通機関との環境負荷を比較するとやはりとびぬけて高い。

福井のように自家用車の保有率が高い地域では、公共交通機関の利用を促進するといっても限界があるが、近距離なら自転車を利用したり、買い替えの際には環境負荷の少ない車種を選ぶなどの配慮はできるのではないかな。

台所用洗剤、洗濯用洗剤、シャンプー、練り歯磨き等は毎日のように使用するが、こうしたものを使うこと自体が環境に負荷を与えていることになり、適量以上に使わないことが大切である。

食事のとき、旬の食べ物以外が食卓にならんでいたら、生産段階で環境負荷がかかっている可能性大。

ハウス栽培された野菜や果物は、露地栽培されたものの数十倍のエネルギーが消費されているという。

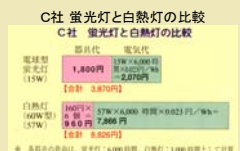
◆比較してみると

環境負荷と経済負担を具体的に比べる例として、蛍光灯と白熱灯を比較してみよう。

C社の60ワット型白熱灯と同等の明るさの電球型蛍光灯(15ワット、以下蛍光灯)を価格と電気料の面から比べてみる。

器具自体の価格では、電球の方が安いですが、電気料では蛍光灯の方が圧倒的に安い。器具の価格と電気代とを合計してみても、白熱灯は蛍光灯の約2倍もの経費がかかることとなる。

一概に蛍光灯がいいとは言わないが、用途に応じた照明器具を選ぶことが電気の使用量ひいては二酸化炭素の排出量を減らすことにつながる。



◆何か一つでも始めよう



便利で快適な生活を享受してきた私たち現代人には、その手軽さを改めることがむずかしい。しかし、環境にやさしい暮らしを実践することは、決して複雑でも困難でもない。ちょっとした気配りや心がけで可能だ。

省エネやごみの分別など、日常生活には、環境負荷を減らす余地がまだまだある。それは同時に経済的な負担を減らすことにもなる。

ここに、世界各国の消費に係る環境負荷を示した図がある。

これを見ると、日本人1人当たりの消費に係る環境負荷は他の国と比較するとかなり高いことが分かる。

私たちはこれまで地球の寛容さに甘えるとともに、環境は無限に無料で利用可能なものと錯覚してきた。そして、今、そのつけを支払わねばならない時代になってきている。しかも、これは今の世代だけでは支払いきれず、未来に生きる子どもたちにまでそのつけを背負わせることになる。

ライフスタイルを変えるだけで、地球に対する負債がなくなるはずもないが、まず、私たちができることから始めようではないか。

大漁消費、大量廃棄に浸った生活はもはやカッコ悪いのだ。

「エコ・ライフ イズ スマートライフ」まずやってみよう。

企業研修会「企業活動と環境」開催される

去る11月11日(木)、当協議会主催の企業研修会が、中小企業産業大学校(福井市)で開催され、企業関係者約100名が参加しました。今回の研修会では、「企業活動と環境」をテーマに、環境問題に積極的に取り組んでいる県内企業・事業所3社に、各社の取り組み事例を発表して

いただきました。

清川メッキ工業(株)常務取締役 清川卓二氏からは、「ISOによる体質改善プログラム」との演題でISO 14001の取得が経営にまでおよぼす効果について、(株)白崎コーポレーション技術部品品質保証グループリーダー 相澤英昭氏からは、「当社の環境保護活動について」と題し、企業活動における環境配慮について、永大産業(株)敦賀事業所主任技師 西野一男氏からは、「熱帯雨林での植林とCO2の削減」との演題で、アマゾンでの植林活動について、御講演いただきました。

実際の企業活動に基づいた各社それぞれの取組みは、参加者の参考になった模様で、講演の後には活発な質疑が交わされました。

●読者の窓

- 日本人はやらなければいけないことはよくわかっていますが、いざ自分が実行にうつすとするとその割合は非常に悪くなります。地球全体の環境汚染が広がっていることを実感できないからと、非協力的な行動につながっているのでは…誰も手軽に実態を実感できる何かが欲しいですね。(武生市 農業 男)
- ごみ減量化をもっと積極的にすすめるため、過剰包装をしない取組みを消費者、関係企業、団体、行政が一体となって行うべき。特に野菜、果物などもっとばら売りができるのではないかと。空き缶やペットボトルの投げ捨てが多い。どんな人が投げるのか。(敦賀市 地方公務員 女)
- 特集「ごみの減量化」、大変参考になります。私たちの地区でもごみの分別に地域あげて取り組んでおり、なかなか徹底できず苦慮しています。(勝山市 公務員 女)
- はじめて読みました。考えさせられることばかりです。昔のことを思うと、あまりの生活の違いにとまどっている毎日です。(上中町 農業 女)
- 便利な生活につかってしまった現代人ですが、一人一人がライフスタイルを変えることを再認識するべきだと思います。(丸岡町 アルバイト 女)
- ごみの減量化について家族で話し合うきっかけになりました。(福井市 学生 女)
- 私たちはCO2を放置せず、減らす行動計画に参加しなければならないと思いました。(福井市 無職 男)

環境ふくい推進協議会会員募集中

環境ふくい推進協議会では、随時、会員を募集しています。
お申込み・お問い合わせは
環境ふくい推進協議会事務局(福井県環境政策課内)
TEL 0776-20-0301 まで